

福井県母子保健計画策定の基礎調査

大井田 隆^{*}
林 佳子^{*}
梶 田 悦子^{**}

要約: 健康意識や健康の価値感をたかめ地域全体の健康レベルアップはすべての人々の望むところである。このたび母子保健対策の充実・改善を目指し、1才6ヵ月児、3才児健康診査、母子保健推進員等のデマンドを把握した。その結果をふまえ今後の母子保健計画に資する。

見出し語: 保健計画、1才6ヵ月児健康診査、3才児健康診査、母子保健推進員、

研究方法: 1) 県内35市町村、8保健所で実施している1才6ヵ月児及び3才児健康診査の昭和62年3・4・5月の3ヵ月間の受診者。

1才6ヵ月児健診受診者……………2, 235人
3才児健診受診者……………2, 328人
を対象に健診の認知度、受診目的と受診姿勢を、受診後に診察、相談指導の満足感等をアンケート調査より把握する。

2) 県内29市町村の母子保健推進員等677人の背景と地域活動の参加意識、行政への期待等をアンケート用紙に無記名記入。

結果: (各アンケート調査項目別に図表で示し項目別に結果及び考察をした)

1) 1才6ヵ月児、3才児健康診査受診調査項目別集計図表1~14 (奇数図表は1才6ヵ月児、偶数図表は3才児)

図表1, 2 受診者の健診目的が何であるか1才6ヵ月、3才児とも43%が疾病、異常の有無、発育の遅れをみてほしいと答えている。1才6ヵ月児と3才児の時点での違いは目的がなく単に通知があったから受診するのが3才児では多く、育児相談したい割合と順位が変わっている。

福井県厚生部保健予防課

(Health and Disease prevention, Fukui pref.)

福井県立短期大学

(Fukui prefectural college)

図表3、4 受診のため半数は休暇をとっている。ただし休暇は一日とるのではなく、1才6カ月児では28%が時間的が一番多い。3才児は半日休暇をとるのが23%が一番多い。

図表5、6 健診の受け方は、現在集団健診方式で実施しているが個別委託方式で医療機関受診の方法を希望するのは、1才6カ月児、3才児とも10%にすぎない。79%は現在の方法でよいと答えている。

図表7、8 診察内容は70%が現在の診察でよいと答えている。もっと詳しい診察を望んでいる答えも10%前後ある。

図表9、10 相談内容は大体知っていたものが45%と半数近く、更に確認出来た25%を入れると70%は既に知識、情報として知られている。はじめて聞いたのは7~9%にすぎない、聞くまでもなかったのも1.5%ある。1才6カ月児、3才児とも同じである。

図表11、12 指導相談したことを63%が今後実行出来そうと答えている。しかし全体の34%が未記入で気になる場所である。はっきり実行出来ないと答えているのが1才6カ月で2.8%、3才児で1.5%ある。なおもっとゆっくり相談したいが7%前後ある。反対に相談することがないと答えているのも1才6カ月児で3.8%、3才児で5.7%ある。気になるのが19~24%の未記入である。

図表13、14 健診を受けて安心出来たが40~42%、参考になったが36~40%、受けるまでもなかった1.2%、全体の76~82%は受診したことをプラス面で答えている。

2) 母子保健推進員等調査

調査項目別集計図表A~Q

図表A 地域活動として第一線で活躍している母子保健推進員等の職業は無職44%、農林漁業16%と時間が自由にとれるのが60%であり、40%は勤務がある。

図表B 年齢層は50才代が30%と最も多く、子育ても済み社会参加しやすい。つぎに40才代、30才代となり60才代の14%の順である。60才代は永年継続しているためであろう。ある年齢層に偏ることなく構成されている。

図表C 役員としては母子保健推進員のみでなく、今まで既に他の役員歴のあるものが77%である。

図表D、E 役員となった契機で選挙によるものは役員歴のある場合は19%、はじめて役員になった場合だと11%である。64%の役員は個別的に契められている。多用な日常生活の中で役員選出については、地域活動を行ううえでのネックである。

図表F 役員の経験年数は1~2年が43%と多く、つぎに3~5年の27%である。6年以上継続している場合も25%とある。

図表G、H、I 役員歴と保健行政の認知関係は当然役員歴が少ないほど知られていない。その割合は1~2年で41%、3~5年で17%、6年以上は7%となっている。反対に知っている割合は6年以上で91%、3~5年で81%、1~2年で57%と反比例である。

図表J、K 研修状況は全体の受講率76%で役員歴が3年以上あると86%が受講してい

る。研修内容の理解はよくわかった43%、もう一度やってほしい34%、わからないのが11%である。役員歴が1～2年では33%が受けていない。これは研修回数が年数回と少ないと機会を逸するためと考えられる。今後対応の必要性がある。

図表L 役員の認知度はこんな役員のあることを知っていたのが70%である。これは役員自身のことであって、一般住民がどれだけ知っているかが問題である。

図表M、N 役員になった時の気持は30%の人はやってみたいと思っていた、59%は仕方なく役員になったと答えている。しかし役員を体験して、あとしばらくやってもいいと答えているのが60%、早くやめたいのが33%と反対になっている。このことは地域活動することに満足感があると考えられる。

図表O その満足度は社会活動が出来たのが43%と最も多く、つぎに育児問題がわかった38%である。しかし特にしなくてもよかったと答えているのも7%ある。

図表P、Q 行政への期待をも含めて、地域にこのような役員がいるとよい86%、いなくてもよい11%である。またこのような役割は行政がやるべきと行政へ期待するのが26%、住民の誰もがやることであると答えているのが64%と役員自身の体験のうえで答えている。

考察：1才6ヵ月児、3才児健康診査の充実、改善としては現在の集団健診方式を変える必要はない。内容の充実については、63年度から

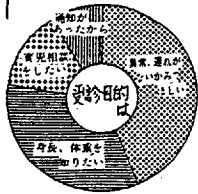
35全市町村が1才6ヵ月児精密健康診査並びに心理相談員の対応にあたる計画が出来た。改善策としては健康診査マニュアルを作成する必要がある。フォロー必要児の対応は地域の保健所と市町村のよりよい連携で対応し学校保健にも結びつけるようにしたい。

文献：母子保健システムの充実に関する研究・研究報告書（昭和60・61年度）厚生省心身障害研究「母子保健システムの充実・改善に関する研究」研究班

1才6カ月児 3才児健康診査受診調査項目別図表

1才6カ月児健康診査受診者

調査総数 2235

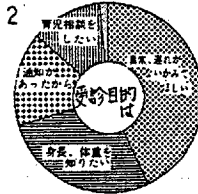


A 異変を感じた	33.8%	1649
B 予防接種	33.6%	1267
C 育児相談	13.6%	512
D 通知のあつた	8.5%	328
E その他	8.6%	21
合計	100.0%	3769

(重複回答)

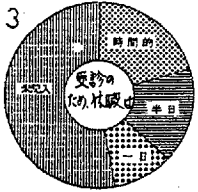
3才児健康診査受診者

調査総数 2328

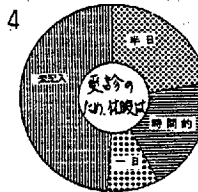


A 異変を感じた	3.3%	1458
B 予防接種	27.1%	928
C 通知のあつた	16.1%	545
D 育児相談	12.1%	411
E その他	1.3%	45
合計	100.0%	3389

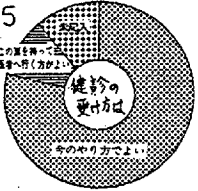
(重複回答)



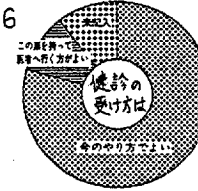
A 時間的	28.4%	457
B 半日	16.6%	372
C 一日	18.1%	226
D 未記入	52.7%	1177
E 不明	8.1%	3
合計	100.0%	2235



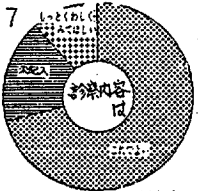
A 半日	22.6%	527
B 時間的	19.6%	456
C 一日	9.1%	211
D 未記入	48.7%	1134
E 不明	8.1%	3
合計	100.0%	2328



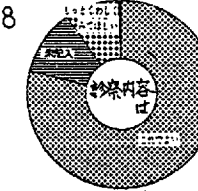
A 合計でよい	78.8%	1762
B 帯状検出書へ	18.1%	225
C 未記入	11.8%	245
D 不明	8.1%	3
合計	100.0%	2235



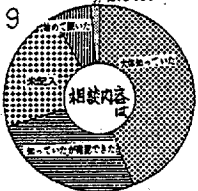
A 合計でよい	79.5%	1851
B 帯状検出書へ	18.1%	234
C 未記入	18.4%	243
D 不明	8.1%	3
合計	100.0%	2328



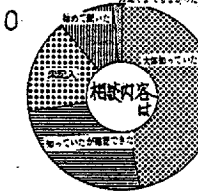
A 減でよい	78.9%	1585
B 未記入	17.8%	397
C 以外の内容	1.2%	258
D 不明	8.1%	3
合計	100.0%	2235



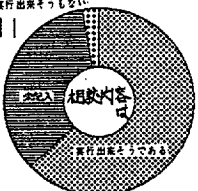
A 減でよい	78.9%	1837
B 未記入	11.4%	265
C 以外の内容	9.4%	219
D 不明	8.3%	7
合計	100.0%	2328



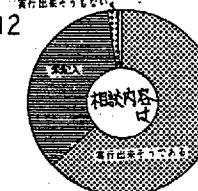
A 大抵減でよい	44.1%	986
B 確認出来た	26.1%	594
C 未記入	21.6%	482
D 減でよい	6.8%	151
E 問はれていない	1.4%	32
合計	100.0%	2235



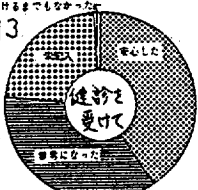
A 大抵減でよい	46.7%	1088
B 確認出来た	25.7%	598
C 未記入	16.5%	383
D 減でよい	9.6%	224
E 問はれていない	1.5%	35
合計	100.0%	2328



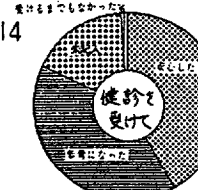
A 実行出来た	62.8%	1403
B 未記入	34.3%	767
C 実行出来た	2.8%	63
D 不明	8.1%	3
合計	100.0%	2235



A 実行出来た	63.3%	1474
B 未記入	34.1%	795
C 実行出来た	1.5%	36
D 不明	8.1%	23
合計	100.0%	2328



A 安心した	48.6%	988
B 今のうちに	35.8%	801
C 未記入	22.4%	508
D 受診した	1.2%	26
合計	100.0%	2235

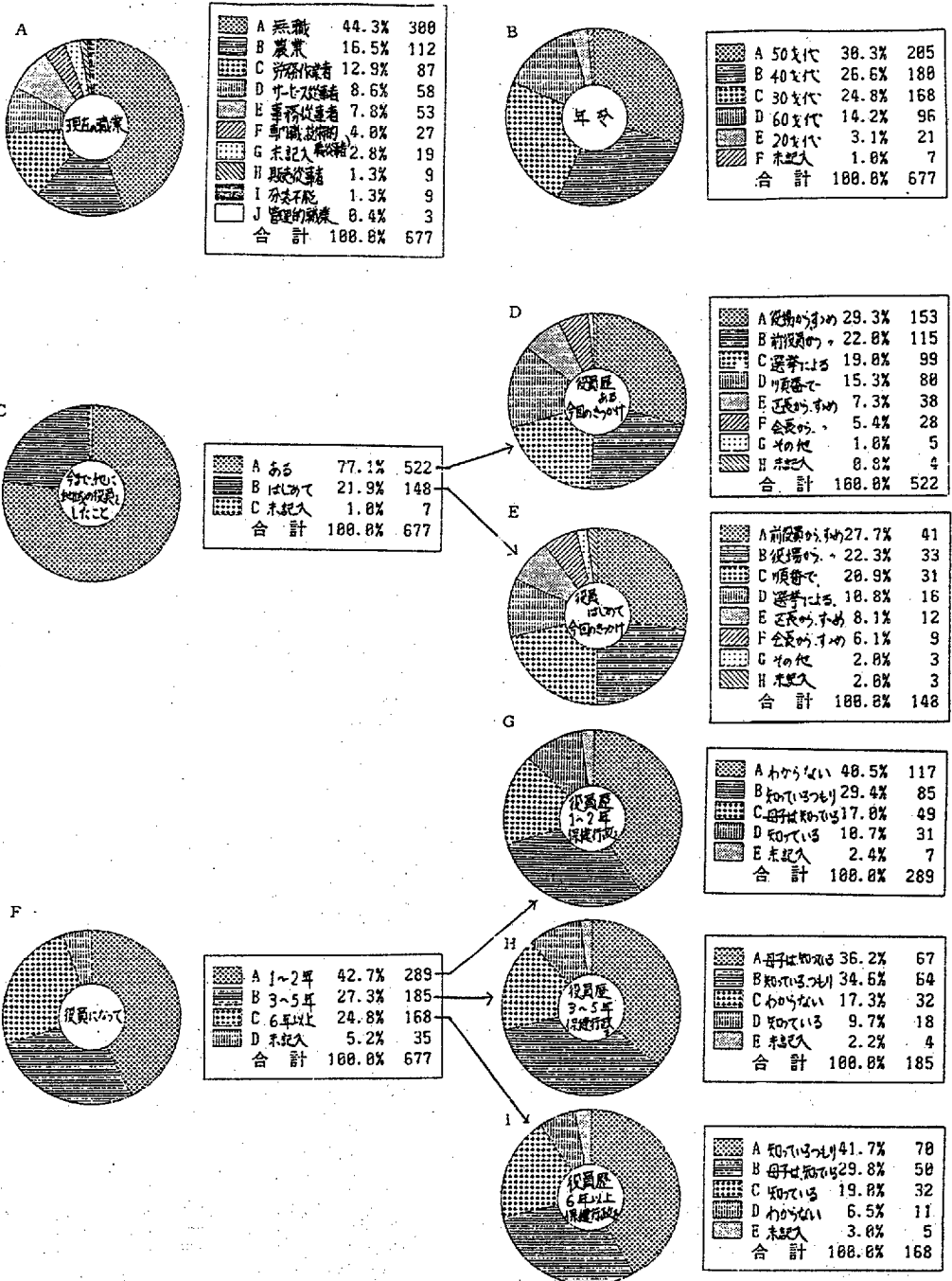


A 安心した	42.8%	978
B 今のうちに	48.8%	931
C 未記入	16.8%	398
D 受診した	1.2%	29
合計	100.0%	2328

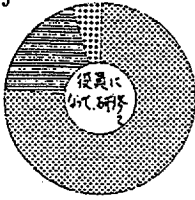
母子保健推進員等アンケート調査項目別図表

母子保健推進員 愛育会役員等

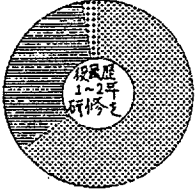
調査数 677人



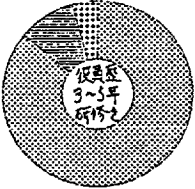
J



A 受けた	76.3%	498
B 受けたが	18.7%	120
C 未記入	5.0%	32
合計	100.0%	642



A-D 受けた	64.7%	187
E 受けたが	32.5%	94
F 未記入	2.8%	8
合計	100.0%	289

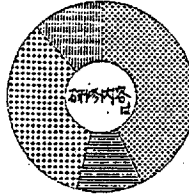


A-D 受けた	85.9%	159
E 受けたが	9.7%	18
F 未記入	4.3%	8
合計	100.0%	185

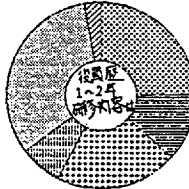


A-D 受けた	85.7%	144
E 受けたが	4.8%	8
F 未記入	9.5%	16
合計	100.0%	168

K



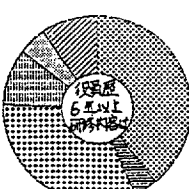
A よくわかった	42.7%	289
B わからぬ	11.4%	56
C 多少わかった	33.9%	166
D 未記入	12.0%	59
合計	100.0%	499



A よくわかった	24.6%	71
B わからぬ	11.8%	34
C 多少わかった	21.1%	61
D 未記入	7.3%	21
E 受けたが	32.5%	94
F 未記入	2.8%	8
合計	100.0%	289

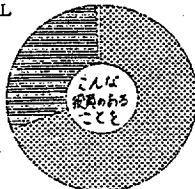


A よくわかった	38.9%	72
B わからぬ	8.1%	15
C 多少わかった	27.6%	51
D 未記入	11.4%	21
E 受けたが	9.7%	18
F 未記入	4.3%	8
合計	100.0%	185



A よくわかった	39.3%	66
B わからぬ	4.2%	7
C 多少わかった	32.1%	54
D 未記入	18.1%	17
E 受けたが	4.8%	8
F 未記入	9.5%	16
合計	100.0%	168

L



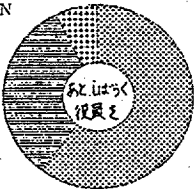
A 知っている	70.0%	474
B 知らない	29.1%	197
C 未記入	0.9%	6
合計	100.0%	677

M



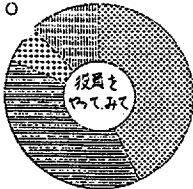
A 知っている	30.0%	201
B 知らない	59.2%	397
C 未記入	10.9%	73
合計	100.0%	671

N



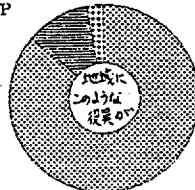
A 知っている	60.2%	404
B 知らない	32.8%	220
C 未記入	7.0%	47
合計	100.0%	671

O



A 社会活動で	3.2%	290
B 研究会で	37.9%	254
C 学芸会で	6.9%	46
D 未記入	12.1%	81
合計	100.0%	671

P

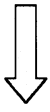


A いるとい	86.3%	579
B いないとい	10.9%	73
C 未記入	2.8%	19
合計	100.0%	671

Q



A 研究のみ	25.6%	172
B 社会のみ	63.8%	428
C 未記入	10.6%	71
合計	100.0%	671



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:健康意識や健康の価値感をたかめ地域全体の健康レベルアップはすべての人々の望むところである。このたび母子保健対策の充実・改善を目指し、1才6ヵ月児、3才児健康診査、母子保健推進員等のデマンドを把握した。その結果をふまえ今後の母子保健計画に資する。